

(5) 食品検査係

食品検査係では、市民の食生活の安全性を確保するため、市民および行政の依頼を受け、市民の食に関連する理化学検査を行っている。その内容は、食品衛生法に基づいて、乳・乳製品、一般食品および容器包装、洗剤等の規格検査を行うほか、食品中の添加物、重金属、残留農薬および合成抗菌剤等の試験検査、さらに化学的食中毒の原因物質検査や栄養成分分析も実施している。また、これらに関する調査研究もおこなっており、平成元年度は厚生科学研究「食品添加物一日摂取量調査研究」に参加した。

国立衛生試験所に残留農薬等の食品汚染物のモニタリングのデーターを提供した。

〔業務内容〕

平成元年度中の総検体数は737件、総検査項目数は2,118件であり（表1,2）、そのうち衛生管理部、保健所からの取去検査は628検体（85.2%）、項目数1,652件（77.9%）であった。

1) 乳・乳製品規格検査

取去検査47検体121項目、その他の行政依頼検査18検体72項目および一般依頼検査2検体2項目について検査を行いすべて規格に適合していた。

2) 一般食品の規格検査

生あんの規格検査11検体11項目、清涼飲料水規格検査32検体163項目について検査を行いすべて規格に適合であった。また、油菓子15検体45項目について検査を行い基準違反はみられなかった。

3) 食品添加物検査

ソルビン酸214件、亜硫酸91件、サッカリンナトリウム151件等、合計947件の検査を行いソルビン酸に2件の基準違反があった（表3-1, 3-2）。

4) 残留農薬及びPCB検査

残留農薬検査は野菜、果物等取去検査62検体284項目、一般依頼検査8検体27項目について検査を行い（表4）一部の検体に残留農薬が検出されたが（表5）、基準違反はみられなかった。PCBについては依頼検査の砂糖7検体ですべて不検出であった。

5) 器具、容器包装検査

合成樹脂その他の規格検査13検体57項目について行いすべて規格に適合していた。

6) 厚生科学研究「食品添加物一日摂取量調査研究」

平成元年度厚生科学研究は、加工食品の原料となる材料中に、予め含まれている天然常在物質の量を把握するためにその予備調査実施した。試料の調製は参加機関を2グループに分け、1グループは1～4群の試料の調製をまた他のグループは5～8群の試料の調製を分担し、相互で試料を送付して分析に供した。当所は1～4群の食品の調製と1～8群のカルシウム塩、マグネシウム塩および鉄塩の分析を担当した。

表1 食品化学検査実施状況

平成元年度

種類	依頼別	総 数		保健衛生部 保 健 所		そ の 他 行 政 機 関		一 般	
		検体数	項目数	検体数	項目数	検体数	項目数	検体数	項目数
牛	乳	30	109	10	35	18	72	2	2
加	工 乳	3	6	3	6	0	0	0	0
魚	介 類	12	24	11	22	0	0	1	2
魚	介 類 加 工 品	119	313	107	290	0	0	12	23
肉・卵類及びその加工品		92	138	88	134	0	0	4	4
乳	製 品	21	67	21	67	0	0	0	0
乳	類 加 工 品	13	13	13	13	0	0	0	0
アイスクリーム類・氷菓		15	22	14	20	0	0	1	2
穀類及びその加工品		99	238	89	203	0	0	10	35
野菜・果実及びその加工品		144	525	115	414	3	39	26	72
菓	子 類	67	166	67	166	0	0	0	0
清	涼 飲 料 水	42	244	32	163	0	0	10	81
かん詰・びん詰		3	9	2	4	0	0	1	5
そ の 他 の 食 品		64	187	52	103	5	60	7	24
器 具 及 び 容 器 包 装		13	57	4	12	5	25	4	20
総	数	737	2,118	628	1,652	31	196	78	270

表2 化学検査項目別検査件数

平成元年度

種 別	依 頼 別		総 数	保健衛生部 保 健 所	そ の 他 行 政 機 関	一 般
	検 査 項 目					
乳 及 び 乳 製 品	比 重	度	27	9	18	0
	乳 脂	肪 分	33	13	18	2
	乳 固 形	分	33	14	18	1
	無 脂 乳 固 形	分	1	0	0	1
	ア ル コ ー ル	分	43	25	18	0
	水	分	2	2	0	0
	計		197	121	72	4
清 飲 飲 料 水 (規 格)	鉛, ヒ 素, カ ド ミ ウ ム, ス ズ の 限 度 試 験		210	161	0	49
食 品 添 加 物	ソ ル ビ ン 酸		214	204	0	10
	安 息 香 酸		28	25	0	3
	パ ラ オ キ シ 安 息 香 酸		32	29	0	3
	デ ヒ ド ロ 酢 酸		25	25	0	0
	合 成 着 色 料		77	76	0	1
	天 然 着 色 料		1	0	0	1
	亜 硝 酸 根		69	65	0	4
	亜 硫 酸		91	81	0	10
	ブ ロ ビ オ ン 酸		10	10	0	0
	サ ッ カ リ ン ナ ト リ ウ ム		151	141	0	10
	ブ チ ル ヒ ド ロ キ シ ア ニ ソ ー ル (B.H.A)		48	41	0	7
	ジ ブ チ ル ヒ ド ロ キ シ ト ル エ ン (B.H.T)		48	41	0	7
	縮 合 リ ン 酸		18	12	0	6
	ブ ロ ビ レ ン グ リ コ ー ル		86	85	0	1
	水		49	48	0	1
	計		947	850	0	64
栄 養 分 析	粗 タ ン バ ク		16	0	8	8
	粗 脂 肪		16	0	8	8
	粗 纖 維		4	0	0	4
	炭 水 化 物		16	0	8	8
	灰 分		16	0	8	8
	水 分		16	0	8	8
	ビ タ ミ ン 類		43	0	32	11
	Ca, P, Na, K, 鉄 食 塩 相 当 量		30	0	22	8
	計		162	0	99	63
金 属	ヒ 素, 鉛, 銅, カ ド ミ ウ ム 他		38	6	0	32
	そ の 他		3	2	0	1

平成元年度

種 別	依 頼 別		総 数	保健衛生部 保 健 所	そ の 他 の 行 政 機 関	一 般
	検 査 項 目					
器具 ・ 容器包装	材質試験	Cd, Pb	22	6	10	6
	溶出試験	重 金 属	9	1	5	3
		蒸 発 残 留 物	9	1	5	3
		KMnO ₄ 消 費 量	9	1	5	3
		そ の 他	3	3	0	0
計		52	12	25	15	
農薬・PCB	塩 素 系	84	77	0	7	
	リ ン 系	190	183	0	7	
	カ ル バ リ	11	11	0	0	
	ア ト ラ ジ	5	0	0	5	
	ア ラ ク ロ ー	5	0	0	5	
	バ ラ コ ー	2	2	0	0	
	総 臭 素	6	6	0	0	
	金 属 (As, Pb, Cd)	7	7	0	0	
P C B	7	0	0	7		
計		317	286	0	31	
合成抗菌剤	ス ル フ ァ ジ ミ シ	17	17	0	0	
	ナ イ カ ル バ ジ	11	11	0	0	
カビ毒	ト リ コ テ セ ン 系	5	5	0	0	
	ア ラ フ ト キ シ ン 系	23	23	0	0	
異 物	ダ ニ ・ そ の 他	6	3	0	3	
放 射 能	セ シ ウ ム 134, セ シ ウ ム 137	61	58	0	3	
そ の 他	油 脂	15	15	0	0	
	酸 価	15	15	0	0	
	過 酸 化 物 価	16	15	0	1	
	シ ア ン 化 合 物	11	11	0	0	
	メ タ ノ ー ル	1	1	0	0	
	ヒ ス タ ミ ン	2	2	0	0	
	水 素 イ オ ン 濃 度	5	2	0	3	
	糖 度	2	2	0	0	
	濁 度	1	0	0	1	
	ジ エ チ レ ン グ リ コ ー ル	1	1	0	0	
計		69	64	0	5	
総 計		2,118	1,652	196	270	

表3-1 主な食品添加物の検査状況(収去検査)

平成元年度

名称	食品名	件数 (違反)	検出数	検出量 (平均)	使用基準
ソ ル ビ ン 酸	魚肉ねり製品	38	20	0.6 ~1.9 (1.2)	2g/kg以下
	魚肉ハム・ソーセージ	2	1	0.6	2g/kg以下
	チーズ	10	0		プロピオン酸との合 量3g/kg以下
	食肉製品	40	22	0.3 ~1.7 (1.3)	2g/kg以下
	漬物	38 (2)	25	0.1 ~1.3 (0.49)	1g/kg以下
	魚介乾製品	13	7	0.2 ~0.86 (0.17)	1g/kg以下
	いかくん・たこくん	9	8	0.2 ~1.0 (0.66)	1.5g/kg以下
	煮豆・佃煮 その他の	20 34	12 10	0.01 ~0.65 0.2 ~0.86 (0.34) (0.53)	1g/kg以下
総数	204	105			
サ ッ カ リ ン ナ ト リ ウ ム	魚肉ねり製品	37	0		0.3g/kg未滿
	魚肉ハム・ソーセージ	2	0		0.3g/kg未滿
	コウジ・酢・たくあん漬	6	3	0.6 ~1.0 (0.77)	2g/kg未滿
	かす・みそ・しょう油漬	8	0		1.2g/kg未滿
	その他の漬物	9	1	0.4	0.2g/kg未滿
	煮豆・佃煮	20	0		0.5g/kg未滿
	菓菓子	26	0		0.1g/kg未滿
	魚介加工品 その他の	15 18	1 0	0.05	1.2g/kg未滿
総数	141	5			
プ ロ ビ レ ン グ リ コ ール	生めん	48	26	0.5 ~1.7 (1.2)	2g/kg以下
	魚介乾製品	29	1	0.3	0.6g/kg以下
	いかくん	8	0		2g/kg以下
総数	85	27			
亜 硝 酸	食肉製品	11	9	0.0007~0.0034 (0.002)	0.05g/kg以下
	食肉製品	54	37	0.001 ~0.033 (0.017)	0.07g/kg以下
総数	65	46			
亜 硫 酸	生あんな	10	1	0.004	0.03g/kg未滿 使用してはならない
	野菜	17	0		
	漬物	26	3	0.002 ~0.006 (0.004)	0.03g/kg未滿
	煮豆	6	2	0.01 ~0.03 (0.02)	0.1g/kg未滿
	佃煮	9	0		0.03g/kg未滿
	ワソイ その他の	11 2	11 2	0.01 ~0.1 (0.06) 0.007 ~0.017 (0.012)	
総数	81	19			

表3-2 着色料の検査実施状況（収去検査）

平成元年度

着色料 (合成・天然)	項目 種類	検 体 数	検 出 体 数	検 出 色 素 数	検 出 色 素 内 訳												
					黄 色 4 号	黄 色 5 号	赤 色 2 号	赤 色 3 号	赤 色 102 号	赤 色 106 号	青 色 1 号	青 色 2 号	コ チ ニ ー ル 色 素	ク チ ナ シ 黄 色 素	ラ ッ ク 色 素	ニ ン ジ ン 色 素	ク ロ ロ フ ィ ル 色 素
	菓 子	49	23	39	13	4	1	4	2	8	7	0					
	つけもの	13	12	28	12	4	0	0	5	5	2	0					
	そ の 他	14	7	14	4	4	0	0	4	2	0	0					
	総 数	76	42	81	29	12	1	4	11	15	9	0					

表4 農業検査実施状況

平成元年度

品名	区分・判定	区 分	総 数		適		不 適		備 考
			検 体 数	項 目 数	検 体 数	項 目 数	検 体 数	項 目 数	
総 数		収 去	62	284	62	284			
		依 頼	8	27	8	27			
果 実		収 去	23	117	23	117			
		依 頼	0	0	0	0			
野 菜		収 去	28	133	28	133			
		依 頼	0	0	0	0			
そ の 他		収 去	11	34	11	34			
		依 頼	8	27	8	27			

(6) 大気検査係

大気検査係では、市民の健康と生活環境に影響を及ぼすおそれのある大気汚染物質等の検査を行政の依頼を受けて行っている。

また調査研究については、昭和54年度からスパイク粉じん、59年度から酸性雨（雪）、61年度からアスベスト、63年度から地球温暖化物質など、近年社会的な問題となっているものについて、積極的に取り組んでいる。

〔業務内容〕

平成元年度の実施検体数は1,709、延べ検査項目数は4,693で、内訳は表1および表2のとおりである。

1) 降下ばいじん調査

環境管理部の定点観測として市内3箇所にデポジットゲージを設置し、降下ばいじん量の測定を毎月一回行い、成分分析（総量、不溶性成分、溶解性成分）を実施した。

2) 重油中の硫黄分測定

大気汚染防止法および札幌市公害防止条例に基づく燃料規制対象の燃焼施設における重油中の硫黄含有量について117検体の測定を行った。

3) 酸性雨（雪）調査

定点観測として、市内3箇所に採雨器を設置し、毎週一回、4～11月は雨水の、12～3月は雪の水素イオン濃度、導電率ほか8項目の分析を実施した。

なお、北海道東北ブロック公害研連絡協議会が実施している酸性雨（雪）の合同調査にも積極的に参加している。

4) 悪臭物質調査

悪臭防止法に基づく悪臭物質のうち、アンモニア、メチルメルカプタン他4物質の分析を行った。また、新たに平成2年度より規制されることになった悪臭物質（プロピオン酸、n-酪酸、n-吉草酸、イソ-吉草酸）について、分析法の検討を行った。

5) 有害物質調査

生活環境を損なうおそれのある有害物質のうち、自動車排ガスからの影響と見られる発がん性物質（ベンゾ(a)ピレン）、一般環境中の水銀の分析および最近発がん性で問題となっているアスベストの調査を行った。

6) スパイクタイヤによる粉じん調査

昭和59年度から札幌市5カ年計画事業の一環として、本格的な調査が開始され、環境管理部から委託を受けて、スパイクタイヤによる大気環境中の浮遊粉じんの総量および重金属成分の分析を行った。

7) 大気中の微量成分の分析

近年地球規模の環境破壊が世界的な問題となっているが、地球温暖化関連物質といわれているものうち、フロン-11、フロン-12およびフロン-113の大気環境中濃度を調査した。

8) 自動測定機吸収液の調製

一般環境局（9観測局）および自動車排ガス局（3観測局）における窒素酸化物、硫黄酸化物自動記録計の吸収液の調製を904行った。

9) 環境庁委託業務

「未規制物質モニタリング調査」の一環として、環境庁からの委託により、市内の幹線道路沿線一箇所を選び、夏期および冬期、各3日間、アスベストの調査を行った。

10) 国立環境研究所との共同研究

バックグラウンドおよび都市域における地球温暖化関連物質の調査を行い、大気微量成分の動態把握のための基礎資料とし、地球温暖化現象解明の一助とするために、平成元年度より課題名「地球温暖化原因物質に関する調査研究」で、国立環境研究所との共同研究を開始した。当所では、都市におけるフロン放出源を推定するため、フロン-11、フロン-12、フロン-113について、試料の採取および分析を行った。さらに、フロン-11、フロン-12については、札幌市内上空の大気についても飛行機による試料採取、および分析を行い、濃度分布を把握した。

表1 大気検査実施件数

平成元年度

項 目	検 体 数		延べ検査項目数	
	平成元年度	昭和63年度	平成元年度	昭和63年度
降 下 ば い じ ん	47	114	407	494
雨 水 成 分 調 査	276	76	2,751	709
重 油 中 の 硫 黄 分 測 定	117	152	117	152
悪 臭 調 査	28	44	102	192
有 害 物 質 調 査	192	544	201	560
大 気 中 の 微 量 成 分 調 査	45	—	83	—
スパイクタイヤによる粉じん調査	94	130	122	192
煙道排ガス中のばいじん	6	11	6	11
自動記録計吸収液調製	904	969	904	969
総 計	1,709	2,040	4,693	3,279

表2 大気検査実施件数一覧表

平成元年度

区分	検体数		項目名	件数	区分	検体数		項目名	件数	
	依頼	独自				依頼	独自			
降下ばいじん	24	12	総量	36	粉じん調査 スパイクタイヤ	21	24	ベンゾ(a)ピレン	4	
			(小計)	108				(小計)	122	
			溶解成分	252				フロン	11	37
			(小計)	396				フロン	12	37
道路粉じん	11	-	総量	11	大気中の微量			フロン	113	9
			pH	276				(小計)	83	
雨水成分調査	101	175	導伝率	276	煙道排ガス	6	-	ばいじん	6	
			アンモニウムイオン	276	重油	117	-	硫黄分	117	
			硫酸イオン	276	悪臭調査	28	-	アンモニア	26	
			硝酸イオン	276				硫化水素	21	
			カルシウムイオン	276				硫化メチル	17	
			塩素イオン	276				二硫化メチル	17	
			ナトリウムイオン	276				メチルメルカプタン	17	
			マグネシウムイオン	255				トリメチルアミン	4	
			カリウムイオン	255				(小計)	102	
			カルシウム分	10				有害物質調査	192	-
			ナトリウム分	10	アスベスト	165				
			降下物量	13	ベンゾ(a)ピレン	18				
			(小計)	2,751	(小計)	201				
			粉じん調査	94	-	浮遊粉じん量	94	自動記録調整	904	-
アルミニウム	4	窒素酸化物				308				
カルシウム	4	オキシダント				56				
鉄	4	等価液				26				
チタン	4	酸化剤				288				
マンガン	4	(小計)				904				
バナジウム	4	総数				1,498	211			

(7) 水質検査係

水質汚濁防止法等の関係法令に基づき、行政及び事業場等からの依頼を受け、河川水、事業場排水、鉱山排水及び地下水等の水質検査を実施した。

また、水環境をめぐる多様な問題に適切に対処するため、ゴルフ場農業による環境影響調査、河川水質の浄化実験等の調査研究を行った。

さらに、環境庁から委託を受け環境中の化学物質の分析法開発にも取り組んだ。

平成元年度中の検査検体数は、1,615件、延検査項目数は10,575件であり、主な検査項目は、河川水の水質検査項目(9)、生活環境項目(6)の他、窒素、りん、トリクロロエチレン、農薬等39種に及んでいる(別表のとおり)。

〔業務内容〕

主な業務内容は以下のとおりである。

1) 行政依頼検査

環境管理部からの依頼によるものがほとんどであり、検体数は1,292件、検査項目数は8,837件であった。これらは全検査数の80%(検体数)、84%(項目数)を占めている。

ア 河川水質検査

豊平川水域15地点、新川水域5地点及び江戸川水域5地点、その他1地点の合計26地点の環境水質監視に伴う水質検査が主なもので、検体数は403件、項目数は4,267件であった。

イ 鉱山排水水質検査

豊羽鉱山5地点及び旧手稲鉱山3地点で、計73検体、615項目について実施した。

ウ 事業場排水水質検査

水質汚濁防止法に基づく特定事業場の監視による水質検査であり、370検体、2,073項目について実施した。

エ 地下水水質検査

テトラクロロエチレン等の低沸点有機塩素系化合物による地下水汚染調査に伴う検査で188検体、1,064項目について検査を行った。

オ 農薬影響調査

ゴルフ場で使用される農薬による河川等への影響調査によるもので、83検体、177項目の検査を実施した。

カ 雪捨場、流雪溝検査

投雪による河川への水質影響調査によるもので、26検体、171項目の検査を実施した。

キ その他

河川水遊場水質検査(7検体、36項目)、湖沼水質検査(8検体、49項目)等に伴う水質検査を実施した。

2) 事業場依頼検査

下水道法の規定に基づく事業場の排水検査が主なものであり、検体数は91件、検査項目数は310件であった。

3) 環境庁委託業務

環境庁の委託を受け、環境中のジフェニルアミンの分析法を開発した。

水質検査実施件数一覧表

平成元年度

依 頼 先	行 政 機 関										事 業 所 ・ 一 般				衛 生 研 究 所					総 計 元 年 度	総 計 63 年 度
	調 査 名	環 境 水 質	鉱 山	工 場	苦 情 ・ そ の 他					小 計	排 水	地 下 水	そ の 他	小 計	直 接 浄 化	農 薬 に よ	河 川 へ の	そ の 他	小 計		
		監 視	監 視	監 視	河 川 水	排 水	地 下 水	湖 沼 水	そ の 他						実 験	る 環 境	硝 化 影 響 調 査				
	河 川 水	排 水	排 水											河 川 水	影 響 調 査	河 川 水					
検 体 数	403	73	370	446	155	89	188	8	6	1,292	47	30	14	91	84	65	76	7	232	1,615	2,139
項 目 数	4,267	615	2,073	1,882	509	226	1,064	49	34	8,837	182	90	38	310	714	68	634	12	1,428	10,575	11,906
pH	396	72	355	205	45	19	133	8		1,028	37	26	7	70	78		62		140	1,238	1,466
DO	396			16	8			8		412					78	1	62		141	553	553
BOD	403		335	170	106	54		8	2	908	3		4	7	78		62		140	1,055	1,149
COD	396		5	22	14			8		423		24		24	78		62		140	587	672
浮遊物質	403		362	132	80	49		1	2	897	3	28	4	35	84		42		126	1,058	1,120
大腸菌群																					
最確数	396			8	8					404										404	473
デソ法			302	1		1				303	1			1						304	386
MFC	132			7	7					139			3	3						142	187
ヘキサノ抽出物	123		84	33	30	1			2	240	3	2	5	10						250	359
総窒素	123			26	8	10		8		149			4	4	78		62		140	293	405
総りん	123		5	26	8	10		8		154			4	4	78				78	236	332
カドミウム	123	72	50	13	6		5		2	258	16			16						274	303
シアン	123	36	50	13	6		5		2	222	4			4						226	273
有機りん	33		12							45			1	1						46	60
鉛	123	72	50	13	6		5		2	258	12			12						270	291
六価クロム	123		50	13	6		5		2	186										186	214
ヒ素	123	72	50	13	6		5		2	258										258	278
総水銀	123		39	13	6		5		2	175	39			39						214	294
アルキル水銀	33		12							45										45	47
PCB	33		12							45										45	47
フェノール類	26		12							38										38	40
銅	26	72	46	43	25	18				187	12		1	13						200	188
亜鉛	26	72	50	8	6				2	156	12			12						168	161
溶解性鉄	26	72	43	8	6				2	149	12			12						161	155
溶解性マンガン	26	72	43	8	6				2	149	12			12						161	154
総クロム	26		13							39	16			16						55	64
ふっ素	26		12							38										38	40
MBAS	123		5	2	1	1				130										130	213
LAS	26			1	1					27										27	33
TCE	52		16	188			188			256										256	204
PCE	52		18	188			188			258										258	204
1,1,1-TCE	52		15	188			188			255										255	204
CCL4	52		12	172			172			236										236	0
電気伝導率				165			165			165			1	1						166	143
農薬				20	11	9				20						2		3	5	25	0
有機りん系				20	10	10				20				1	1	2		3	5	26	0
有機塩素系				90	46	40			4	90			3	3		62		2	64	157	0
その他																					
N-BOD				34	30	4				34							62		62	96	575
塩化物イオン												6		6						6	8
アンモニア性窒素			5	3	3					8							62		62	70	138
亜硝酸性窒素															78		62		140	140	204
硝酸性窒素															78		62		140	140	0
四塩化炭素抽出物				16	14				2	16										16	3
その他		3	10	4					4	17		4		4	6	1	34	4	45	66	266

年 月	会 議 等 の 名 称	開 催 地	参 加 者
元. 8	放射能検査技術研修	札 幌 市	恵花, 木原
元. 8	平成元年度環境庁委託業務打ち合わせ (アスベスト)	東 京 都	伊藤 (正)
元. 9	指定都市衛生研究所長会議	名 古 屋 市	菊地, 浦口
元. 9	第21回国際小児腫瘍会議	チェコスロバキア プ ラ ハ 市	花井
元. 9	第17回代謝異常スクリーニング研究会	熊 本 市	富士, 水嶋, 花井, 山口
元. 9	第29回日本臨床化学会	東 京 都	水嶋
元. 9	第26回全国衛生化学技術協議会年会	神 戸 市	早川, 山本, 米森
元. 9	課題分析研修 (公害研修所)	所 沢 市	立野
元. 9	平成元年度化学物質環境汚染実態調査ブロック別打合せ会議 (東日本ブロック)	東 京 都	東海林, 浅野
元. 10	第40回地方衛生研究所全国協議会総会及び次長, 庶務課長会議	水 戸 市	菊地, 大森
元. 10	第19回北海道母性衛生学会	札 幌 市	富士
元. 10	第62回日本内分泌学会秋季学会	札 幌 市	富士
元. 10	食品衛生微生物研究会第10回学術講演会	広 島 市	小林
元. 10	第48回日本公衆衛生学会総会	つ く ば 市	鈴木
元. 10	日本食品衛生学会第58回学術講演会	山 口 市	大内

2. 年間の動向

(1) 主な会議、研究会、学会等への参加

年 月	会 議 等 の 名 称	開 催 地	参 加 者
元. 4	第4回アジア・オセアニア甲状腺会議	大韓民国ソウル市	福士
元. 5	北海道小児保健研究会	札幌市	水嶋, 花井
元. 5	食品保健特殊技術講習会	東京都	小野
元. 5	フロン測定法研修 (気象研究所, 国立公害研究所)	つくば市	立野
元. 5	平成元年度化学物質環境汚染実態調査打合せ会議	東京都	西野
元. 5	平成元年度全国公害研協議会北海道・東北支部総会	青森県	菊地, 山崎
元. 6	第62回日本内分泌学会総会	東京都	福士
元. 6	地方衛生研究所全国協議会臨時総会及び全国地方衛生研究所長会議	東京都	菊地, 清水
元. 6	地方衛生研究所全国協議会北海道・東北・新潟支部総会	仙台市	菊地, 佐藤 (稔)
元. 6	放射能測定技術研修	東京都	恵花
元. 6	ラジオアイソトープ研修基礎課程	東京都	木原
元. 7	第31回小児神経学会総会	札幌市	山口
元. 7	衛生微生物技術協議会第10回研究会	秋田市	吉田
元. 8	有機酸代謝異常症診断技術研修	旭川市	山口
元. 8	神経芽細胞腫検査技術者研修会 (講師) (厚生省, 母子愛育会主催)	東京都	花井

年 月	会 議 等 の 名 称	開 催 地	参 加 者
元 8	放射能検査技術研修	札 幌 市	恵花, 木原
元 8	平成元年度環境庁委託業務打ち合わせ (アスベスト)	東 京 都	伊藤 (正)
元 9	指定都市衛生研究所長会議	名 古 屋 市	菊地, 浦口
元 9	第21回国際小児腫瘍会議	チェコスロバキア プ ラ ハ 市	花井
元 9	第17回代謝異常スクリーニング研究会	熊 本 市	福士, 水嶋, 花井, 山口
元 9	第29回日本臨床化学会	東 京 都	水嶋
元 9	第26回全国衛生化学技術協議会年会	神 戸 市	早川, 山本, 米森
元 9	課題分析研修 (公害研修所)	所 沢 市	立野
元 9	平成元年度化学物質環境汚染実態調査ブロック別打合せ会議 (東日本ブロック)	東 京 都	東海林, 浅野
元 10	第40回地方衛生研究所全国協議会総会及び次長, 庶務課長会議	水 戸 市	菊地, 大森
元 10	第19回北海道母性衛生学会	札 幌 市	福士
元 10	第62回日本内分泌学会秋季学会	札 幌 市	福士
元 10	食品衛生微生物研究会第10回学術講演会	広 島 市	小林
元 10	第48回日本公衆衛生学会総会	つ く ば 市	鈴木
元 10	日本食品衛生学会第58回学術講演会	山 口 市	大内

年 月	会 議 等 の 名 称	開 催 地	参 加 者
元 10	第 15 回北海道・東北ブロック公害研研究連絡会議	札 幌 市	前田, 山崎, 塩田, 伊藤 (正), 東海 林, 浦嶋
元 11	第 35 回日本病理学会秋期特別総会	東 京 都	菊地
元 11	大同生命厚生事業団第 16 回医学助成金贈呈式	大 阪 市	福士
元 11	第 41 回北海道公衆衛生学会	帯 広 市	川合, 福士, 小塚, 小野
元 11	第 68 回放射線安全管理講習会	札 幌 市	水嶋
元 11	第 5 回小児がん研究会	東 京 都	花井
元 11	平成元年度地研北海道・東北・新潟支部衛生微生物研究部会総 会	青 森 市	大森
元 11	第 30 回大気汚染学会	川 崎 市	塩田
元 11	平成元年度地方公共団体公害試験研究機関等所長会議	東 京 都	菊地, 柏原
元 12	代謝異常スクリーニング研究会	高 知 市	福士
元 12	第 3 回日本バイオチン研究会	東 京 都	山口
元 12	第 16 回環境保全・公害防止研究発表会	東 京 都	伊藤 (正), 浅野
2 1	血液自動分析装置購入に関する使用調査	東 京 都	福士
2 1	全国公害研究所交流シンポジウム	つ く ば 市	立野
2 2	第 3 回公衆衛生情報研究協議会総会及び研究会	東 京 都	菊地

年 月	会 議 等 の 名 称	開 催 地	参 加 者
2. 2	厚生省心身障害研究「代謝疾患，内分泌疾患等のマスキリーニング，進行阻止及び長期管理に関する研究」班会議	東 京 都	福土，花井，山口
2. 2	代謝異常スクリーニング研究会技術者懇談会第8回東日本部会	大 宮 市	福土，花井，真下
2. 2	VMA・HVAフィールドテスト研究会	東 京 都	花井
2. 2	平成元年度地研北海道・東北・新潟支部衛生研究部会総会	札 幌 市	菊地，大内，小塚， 佐藤，山本
2. 2	平成元年度環境庁委託業務打ち合わせ（アスベスト）	東 京 都	大谷
2. 2	第7回環境科学セミナー	所 沢 市， 東 京 都	柏原，西野
2. 2	平成元年度環境測定分析統一精度管理調査結果検討ブロック会議	山 形 市	浦嶋
2. 3	第60回日本衛生学会	福 岡 市	遠田，西尾
2. 3	キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会	京 都 市	山本
2. 3	平成元年度食品添加物摂取量調査研究報告会	北 九 州 市	大内，恵花
2. 3	第24回水質汚濁学会	川 崎 市	早川，浦嶋
2. 3	全国家庭用品安全対策担当係長会議	東 京 都	小塚

(2) 施設見学及び来訪者

年 月 日	来 訪 者	視 察 内 容	人 数
元 4 6	仙台市環境公害部部长	大気検査	1
元 6 5	千葉県三礼幌医科大学(小児科)教授ほか	施設及び業務全般	2
元 6 25 ┆ 27	成瀬浩杏林大学医学部教授R フィリップス, A. フィリップス(米国, IEM社)	新生児・乳児マス・スクリーニング	3
元 7 10	F・U, アメッド博士(インド, アッサム大学医学部)	新生児・乳児マススクリーニング	1
元 7 13	大韓民国環境庁大気制度課 金 容石	大気検査	1
元 8 10	北海道立衛生研究所ほか	食品検査	3
元 8 11	札幌市立日章中学校理科クラブ	環境検査 水質検査	6
元 10 24	仙台市衛生研究所大気班	大気検査	3
元 10 28	中国上海第二医科大学 江 紹基教授ほか	業務全般	3
元 12 4 ┆ 6	J ブリッチャード博士(英国, ロンドン大学医学部)	乳児マススクリーニング	1
2 1 17 ┆ 18	千葉市建築部	建物・設備	2
2 2 13	L. カスティロ博士(ウルグアイ, ベレイラ・ロッセル病院)	乳児マススクリーニング	1
2 3 6	国立公害研究所主任研究員	大気検査	1

(3) 実習指導、研修講師等

区 分	氏 名	指 導 等 の 内 容	年 月 日	場 所
大学医学部 非常勤講師	菊 地 由生子	病理学	元 4 10) 元 6 17	北海道大学医学部
高等看護学院 非常勤講師	清 水 良 夫	衛生法規	元 4 1) 元 6 30	札幌市立 高等看護学院
学校薬剤師 (非常勤)	川 合 常 明	児童の尿検査, 飲料水・プール水の検査そ の他学校における保健衛生管理指導	元 4 1) 2 3 31	札幌学校薬剤師会
実 習 指 導	水 質 検 査 係	市民を対象とした“せせらぎウォッチング” での河川水生生物の鑑定(6回 470名)	元 6 月) 元 8 月	市内河川
実習指導助手	花 井 潤 師	神経芽細胞腫検査技術者研修会	元 8 27) 元 8 30	社会福祉法人 恩賜財団母子愛育会 (東京都)
専 門 学 校 非常勤講師	富 澤 政	衛生法規	元 10 2) 2 3 6	光塩学園 調理師専門学校
研修会講師	大 谷 倫 子	平成元年度海外派遣研修報告会 諸外国における水道水質管理について	2 2 16	札幌市水道局 水質試験所